



緊急事態宣言下で自粛していた
朝の駅頭活動を再開!!

RYU'S CLUB

緊急事態宣言解除

感染再拡大の防止に向けて 変異株対策の徹底、検査 拡充を求める。

皆様には長期にわたって新型コロナウイルスの感染防止対策などにご協力いただいていることに感謝申し上げます。2カ月半に及んだ緊急事態宣言は3月21日で全面解除されました。依然として感染収束への道筋は見えず、リバウンドへの懸念も消えていません。これ以上延長しても打つ手が無いという理由での解除には疑問が残りますが、大事なものは、今後も緩めることなく、徹底して感染を抑え込んで、何としても第4波に見舞われることを防ぐことです。

政府は、ようやく感染状況の兆候を早期につかむための無症状者への検査を行う方針を示しましたが、検査の規模のさらなる拡大や積極的な疫学調査の実施を強く求めてまいります。また、変異ウイルスの監視体制についても、水際対策を強化し、変異株検査は出来る限り多くの感染者を対象に行うことが必要です。ワクチンの接種も始まり、川崎市など各自治体が準備を進めています。安全かつ計画的に実施するためには、供給の見通しなどについての正確かつ迅速な情報提供が求められます。

これまでの菅政権のコロナ対策は、GOTOキャンペーンの停止や外国からの入国禁止措置、緊急事態宣言発出のタイミング等、対応の遅れが目立ちました。現在は、国会が開会中ですから、私たち野党も審議を通じて、政府の対応を厳しくチェックするとともに、追加の対策などについても具体的な提案も行いながら、感染の再拡大防止に向けて全力をあげてまいります。

今国会では、総務省や農林水産省の不適切な接待疑惑が発覚しましたが、これまでも政治とカネなどを巡る多くの不祥事、国会に提出する資料の改ざん、官邸に対する官僚の忖度など、自民党1強体制が長く続く中で驕りや緩みから生じる問題は、枚挙にいとまがありません。

今年の10月に衆議院議員は任期満了を迎えるため、秋までには必ず総選挙が行われます。"何としても与野党が伯仲する状況をつくり、政治、国会の緊張感を取り戻さなければならぬ" という決意をもって今後ともがんばってまいります。



笠ひろふみ

りゅう 衆議院議員 元文部科学副大臣



東京オリンピック・パラリンピックについて

1月26日

笠 菅総理は「人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証としての大会」と述べているが、7月、8月に世界でコロナが収束しているはずはない。例えば「打ち勝つための勇気と希望を与える大会にしたい」と言うべきではないか。無観客も含めて、どういふ大会であれば実現できるのかを正直に、真摯に、国民の皆さんに語り、説明をしていくべきだ。

橋本大臣 コロナ対策を徹底しなければ世界の皆さんに喜んでいただくことにならない。夢と希望と同時に、世界が直面する大変大きな課題というものを解決するための大会と位置づけていかなければならない。

3月17日

笠 (IOC総会でバツハ会長が中国のワクチン提供の申し出を歓迎したことについて) 中国の新疆ウイグル自治区における人権問題、香港の問題もあり、欧米諸国からは北京五輪への批判が出ている。国際的な人権団体からもIOCに北京五輪開催への抗議も寄せられる中、中国がIOC総会を舞台にワクチン外交を展開して、こうした批判を打ち消そうとしているのではないか。非常に違和感を覚える。オリンピック憲章では政治的中立とともにいかなる種類の差別も禁じている。バツハ会長の中国に対する前のめりの姿勢を危惧する。

丸川大臣 北京で行われる冬のオリンピックについてそのような疑念がもし世界から寄せられるとするならば、まず北京において、疑念を晴らすようなご説明をいただくことが一義的には必要なのではないかと思います。

笠 海外からの観客を受け入れないとのことだが、選手だけで1万1千人近く、大会関係者5万人以上に加えて、IOCはトップスポンサー関係の海外からの受け入れを検討しているようだが、水際対策を徹底するためにも早めに結論を出すように求めるべきではないか。

丸川大臣 ご指摘の通りで、慎重な判断が必要ですよという形で伝えさせていただきましたが、しっかり更に詰めていきたいと思っております。



文部科学委員会で論戦を展開!



今後の少人数学級の推進について

3月17日

*令和3年度から5年かけて、現在の40人学級を小学2年から6年まで35人学級に引き下げることにまりました。

⇒一歩前進と評価するものの、今後の課題残す!

文部科学省は、昨年末の財務省との予算折衝で、小学2年から中学3年までの30人学級を要求していましたが、残念ながら小学校の35人学級への引き下げで決着しました。萩生田大臣は質疑の中で、今後とも小中学校の30人学級実現に向けて、引き続き努力することを約束しました。

少人数学級は不登校の改善に効果があることが検証されています。不登校の子どもは、小学生よりも中学生の方が圧倒的に多くなっています。このため、中学校の35人学級を(令和8年度に向けた計画を)前倒して実現すべきと強く求めました。そして、与野党が協力して小中学校での30人学級の実現を目指すべきと強調しました。また、今後の検証などに向けて、文科省が地方自治体との協議の場を設置することを評価し、国と地方が一体となって少人数学級推進に取り組むよう求めました。地域によって子どもたちを取り巻く環境は様々です。国として予算を確保しながら、地方自治体が各々の事情に応じて、主体的に少人数学級や少人数教育を推進していく視点の必要性を強調しました。

教員の数と質の確保が今後の大きな課題となります。教員の採用倍率は大幅に低下しています。教職員の働き方改革、外部人材の活用のあり方や教員免許制度の抜本的な見直しも検討課題です。ICTを活用した学習が進む中で、誰一人取り残すことなく、ひとり一人の子どもたちに応じた最適な学びの実現を目指します。

週末の街宣活動

緊急事態宣言の間、週末は街頭演説の代わりに、地域を街宣活動しました。多くの皆様から激励や声援をいただき感謝です!

国会でもリモートによる打ち合わせが増えました。

りゅう
笠ひろふみからのお願いです!!

無所属で活動しているため、これまで支給されていた政党助成金もなく、大きな組織の支援もありません。皆様お一人おひとりの力が頼りです。是非、笠ひろふみの活動をお支えください。

笠友会(後援会)会員募集 各種イベントのご案内、年に6回程度の会報誌の送付等を行っています。

寄附のお願い 一口1000円からご協力を頂ければ幸いです。尚、寄附は除除の対象となりますので、詳しくは事務局にご相談ください。

ボランティア募集 駅頭でのピラ配り、ポスティング、事務作業等にお力をお貸しください。

詳細は <http://ryu-h.net> TEL.044-900-1800